

2022年12月期 第2四半期 決算説明資料

協和キリン株式会社



アジェンダ

財務レビュー
 コマーシャルアップデート
 R&Dアップデート
 2022年のニュース

代表取締役社長 宮本昌志

Q&A

代表取締役社長	宮本昌志
常務執行役員 財務経理部長	川口元彦
執行役員 研究開発本部長	鳥居義史
執行役員 戦略本部グローバル製品戦略部長	須藤友浩

本資料には、当社（国内外の連結子会社を含む）の見通し、目標、計画など、将来に関する記述が含まれています。これら将来に関する記述は、当社が現時点において入手している情報や予測をもとになされた当社の合理的な判断に基づくものですが、実質的にこれら記述とは大きく異なる結果を招く不確実性を含んでいます。

これら不確実性には、国内外製薬業界の事業活動に潜在するリスク、知的財産権にかかるリスク、副作用に関するリスク、法的規制リスク、製品の欠陥等の発生リスク、原燃料価格の変動リスク、製品市況価格の変動リスク、為替・金融市場の変動リスクなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

本資料は、投資家の皆様に向けて情報を提供することを目的としたものであり、内容には医薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。

財務レビュー

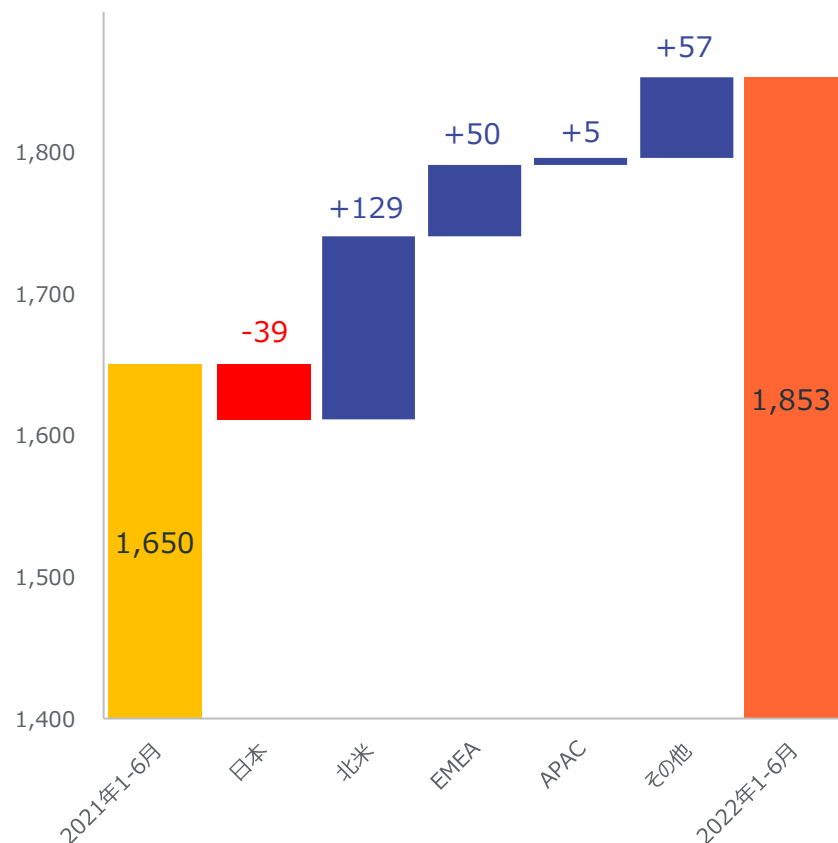
Q2決算サマリー

(単位は億円、単位未満四捨五入)

	2021年 Q2実績	2022年 Q2実績	増減	2022年 修正予想	進捗率
売上収益 [海外売上比率]	1,650 [52%]	1,853 [59%]	+202 (+12%)	3,800→ 4,000 [62%]	46%
売上総利益 [売上総利益率]	1,238 [75%]	1,419 [77%]	+181 (+15%)	2,980→ 3,120 [78%]	45%
販売費及び一般管理費 [販管費率]	672 [41%]	764 [41%]	+92 (+14%)	1,640→ 1,720 [43%]	44%
研究開発費 [研究開発費率]	265 [16%]	279 [15%]	+14 (+5%)	700→ 670 [17%]	42%
持分法投資損益	9	24	+15 (+158%)	30→ 40	59%
コア営業利益 [コア営業利益率]	309 [19%]	399 [22%]	+90 (+29%)	670→ 770 [19%]	52%
当期利益/四半期利益	251	350	+99 (+40%)	530→ 630	56%

前年対比分析～売上収益～

売上収益 +202億円
(うち為替 +98億円)



● 日本 -39億円

ダーブロック・ロミプレート・ジースタ・クリスピータなどが伸長したものの、2021年4月および2022年4月の薬価改定影響や後発品が発売されたパタノールの大幅減収により、日本リージョンは5%の減収。

● 北米 +129億円 (うち為替+52億円)

Crysvita・Poteligeo・Nourianzがそれぞれ売上を伸ばし、北米リージョンは37%の増収。

● EMEA +50億円 (うち為替+21億円)

後発品の影響によりAbstralが減収となるも、Crysvita・Poteligeoが売上を伸ばし、EMEAリージョンは19%の増収。

● APAC +5億円 (うち為替+12億円)

中国集中購買制度の影響でRegparaが減収となるも、Gran・Neulasta・Nesp等が売上を伸ばし、APACリージョンは3%の増収。

● その他 +57億円 (うち為替+12億円)

KHK4083共同開発・販売契約一時金\$400Mの繰延収益の増加(2021年7月より収益計上開始)およびファセンラ(ベンラリズマブ)売上ロイヤルティの増加により、その他は42%の増収。

主要アイテムの売上収益(日本)

(単位は億円、単位未満四捨五入)

製品名など	2021年 Q2実績	2022年 Q2実績	前年比	増減要因	2022年 修正予想	進捗率
ネスプ+ネスプAG ¹	129	105	-24 (-19%)	薬価改定・ 競合品影響	195→ 207	51%
ネスプ	19	16	-3 (-14%)		31→ 33	50%
ネスプAG	110	88	-22 (-20%)		164→ 174	51%
ダーブロック	5	27	+21 (+391%)	市場浸透(2020.8発売)	55→ 59	46%
レグパラ	15	11	-3 (-23%)		24→ 20	56%
オルケディア	46	49	+3 (+6%)		100→ 104	47%
ジーラスタ	138	148	+10 (+7%)	市場回復・市場浸透	315→ 315	47%
ポテリジオ	9	10	+0 (+4%)		19→ 20	49%
リツキシマブBS	53	50	-2 (-4%)	薬価改定	97→ 103	49%
ロミプレート	28	48	+19 (+68%)	出荷調整(2020.6-2021.3) からの回復	100→ 100	48%
アレロック	48	38	-10 (-21%)	競合品影響・薬価改定	66→ 56	69%
パタノール	78	22	-56 (-72%)	競合品影響 (2021.12後発品発売)	39→ 30	72%
ノウリアスト	42	39	-3 (-7%)	競合品影響	84→ 81	48%
ハルロピ	13	18	+4 (+33%)	市場浸透(2019.12発売)	55→ 41	43%
クリースビータ	33	41	+8 (+23%)	市場浸透(2019.12発売)	100→ 92	45%
技術収入	13	4	-9 (-70%)	FKB ² 一時金収益繰延終了	10→ 9	43%

1 正式名はダルベエチンアルファ注シリンジ「KKF」。製造販売元は協和キリンフロンティア株式会社、販売元は協和キリン株式会社。 2 正式社名は協和キリン富士フィルムバイオロジクス株式会社。

主要アイテムの売上収益(海外)

(単位は億円、単位未満四捨五入)

製品名など	2021年 Q2実績	2022年 Q2実績	前年比	増減要因	2022年 修正予想	進捗率
Crysvita	354	494	+140 (+40%)	[北米] 市場浸透 [EMEA] 上市国拡大・適応拡大(成人) [APAC] 中国上市	1,052→ 1,162	43%
北米	257	359	+101 (+39%)			
EMEA	97	135	+38 (+39%)			
APAC	—	1	+1 (—)			
Poteligeo	70	103	+33 (+47%)	[北米] 市場浸透 [EMEA] 上市国拡大・市場浸透	225→ 236	44%
北米	58	81	+23 (+40%)		150→ 181	45%
EMEA	11	21	+10 (+87%)		76→ 55	39%
Nourianz	19	26	+7 (+34%)	市場浸透	66→ 61	42%
Abstral	40	36	-4 (-11%)	後発品影響	67→ 72	50%
Regpara	46	20	-26 (-57%)	2021.10 中国で集中購買 ¹ の対象に	37→ 38	52%
技術収入	91	153	+62 (+68%)	KHK4083契約一時金繰延収益 (2021.7～)・ファセンラ伸長	343→ 350	44%
ベンタリズマブ ロイヤリティ ²	71	93	+21 (+30%)			

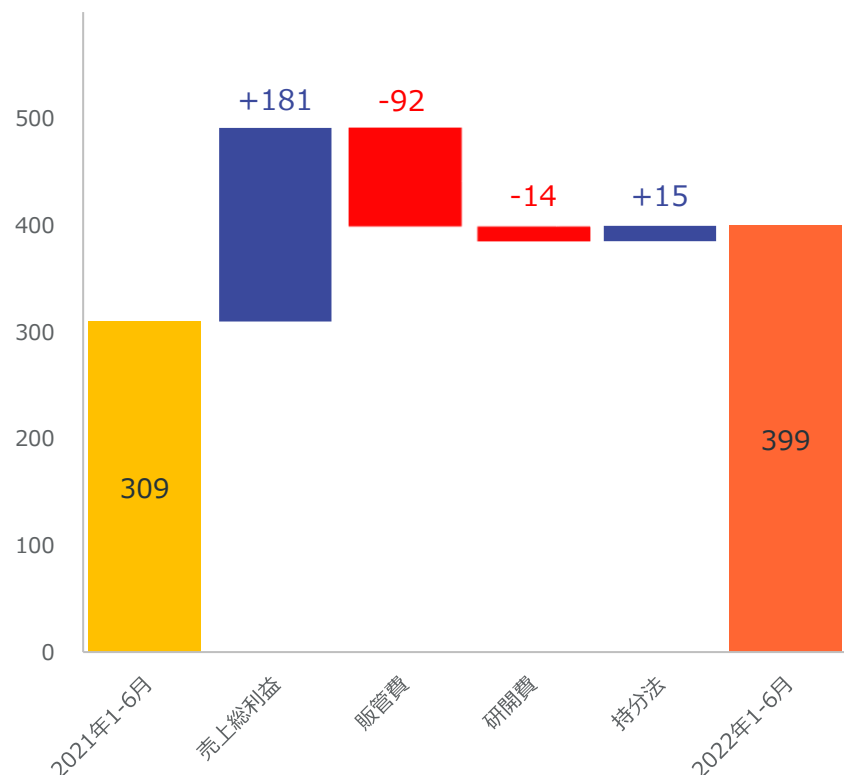
1 中国で医療費削減を目的に2018年に導入された医薬品調達プログラム(VBP; Volume-Based Procurement)。入札により2-5社程度の企業だけに供給が委託される一方、価格は大幅に下落する。

2 アストラゼネカ社が販売するファセンラの売上ロイヤリティ(当社独自の見積もりを含む)

* 主要アイテムの売上収益には、Early Access Program (EAP) による収益は含まれておりません。

前年対比分析～コア営業利益～

コア営業利益 +90億円
(うち為替 +37億円)



● 売上総利益 +181億円 (うち為替+91億円)

売上収益増加(+202億円)に伴う増益。前年同期は棚卸資産未実現利益消去にかかる為替影響が大きかったこともあり、売上総利益率は1.6%の改善(75.0%→76.6%)。

● 販売費及び一般管理費 -92億円 (うち為替-42億円)

Crysvita北米プロフィットシェア費用の増加に加え、グローバル戦略品の価値最大化とグローバルな事業基盤の早期確立に向けたITデジタル基盤や人材への積極的な投資により増加。

[人件費-52、販促費-41(Crysvita北米プロフィットシェア費用-38)、減価償却費・償却費+2、その他-1]

● 研究開発費 -14億円 (うち為替-12億円)

ME-401、KHK4083/AMG 451等の開発費用が増加。

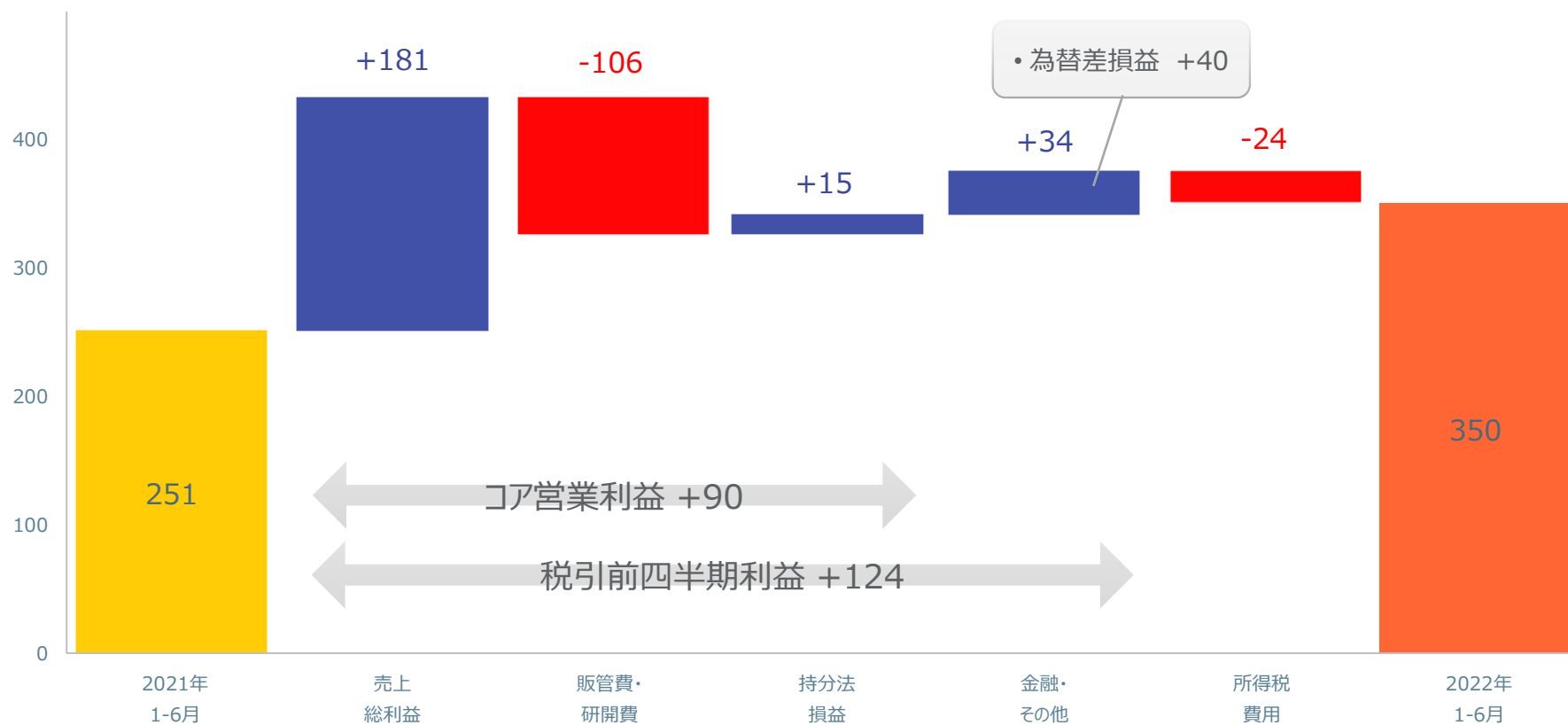
● 持分法投資損益 +15億円

FKB：繰延税金資産の追加計上等により。

FKB：協和キリン富士フィルムバイオロジクス株式会社

前年対比分析～四半期利益～

四半期利益(1-6月) +99億円



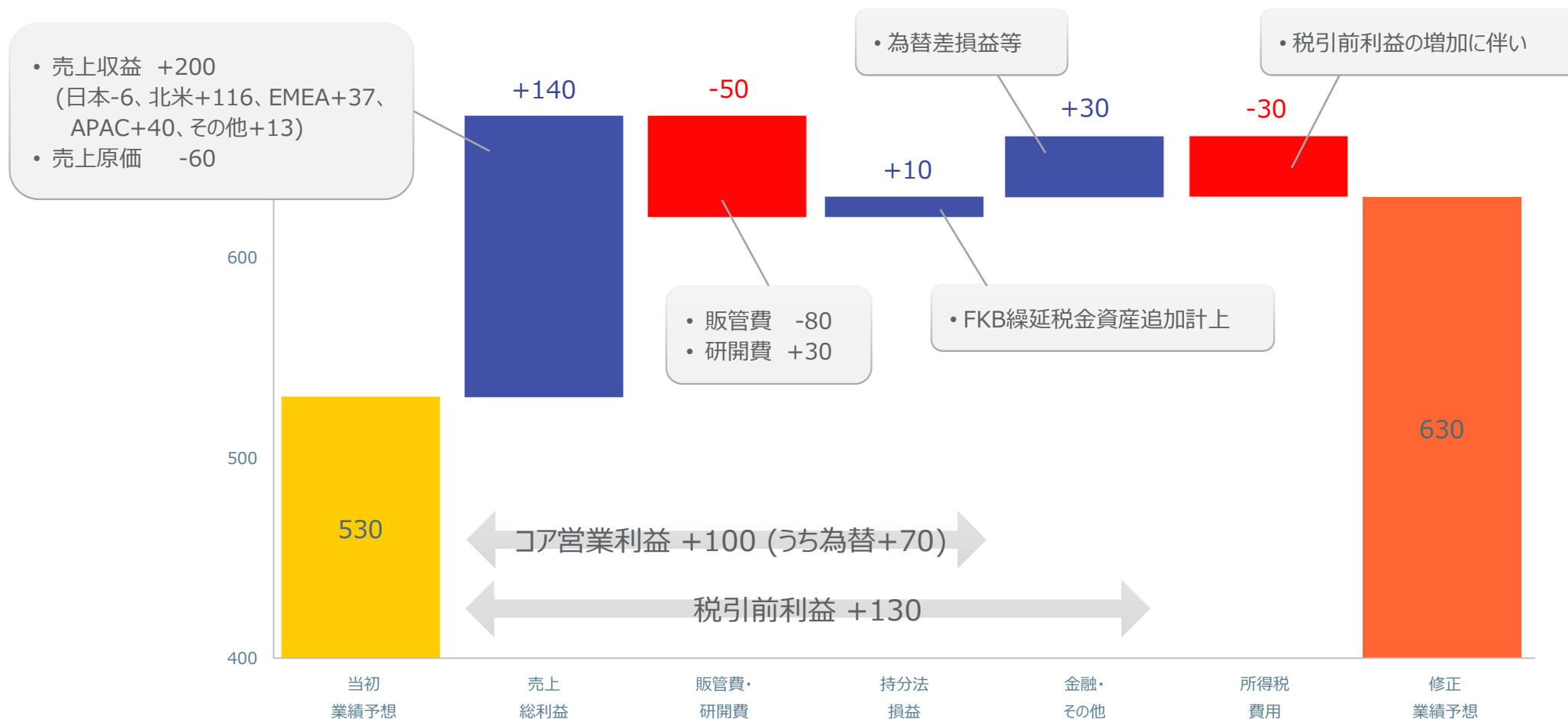
業績予想修正サマリー

(単位は億円、単位未満四捨五入)

	2022年通期 当初予想	2022年H1 実績	2022年H2 修正予想	2022年通期 修正予想	増減
売上収益 [海外売上比率]	3,800 [59%]	1,853 [59%]	2,147 [65%]	4,000 [62%]	+200 (+5%)
売上総利益 [売上総利益率]	2,980 [78%]	1,419 [77%]	1,701 [79%]	3,120 [78%]	+140 (+5%)
販売費及び一般管理費 [販管費率]	1,640 [43%]	764 [41%]	956 [44%]	1,720 [43%]	-80 (+5%)
研究開発費 [研究開発費率]	700 [18%]	279 [15%]	391 [18%]	670 [17%]	+30 (-4%)
持分法投資損益	30	24	16	40	+10 (+33%)
コア営業利益 [コア営業利益率]	670 [18%]	399 [22%]	371 [17%]	770 [19%]	+100 (+15%)
当期利益/四半期利益	530	350	280	630	+100 (+19%)

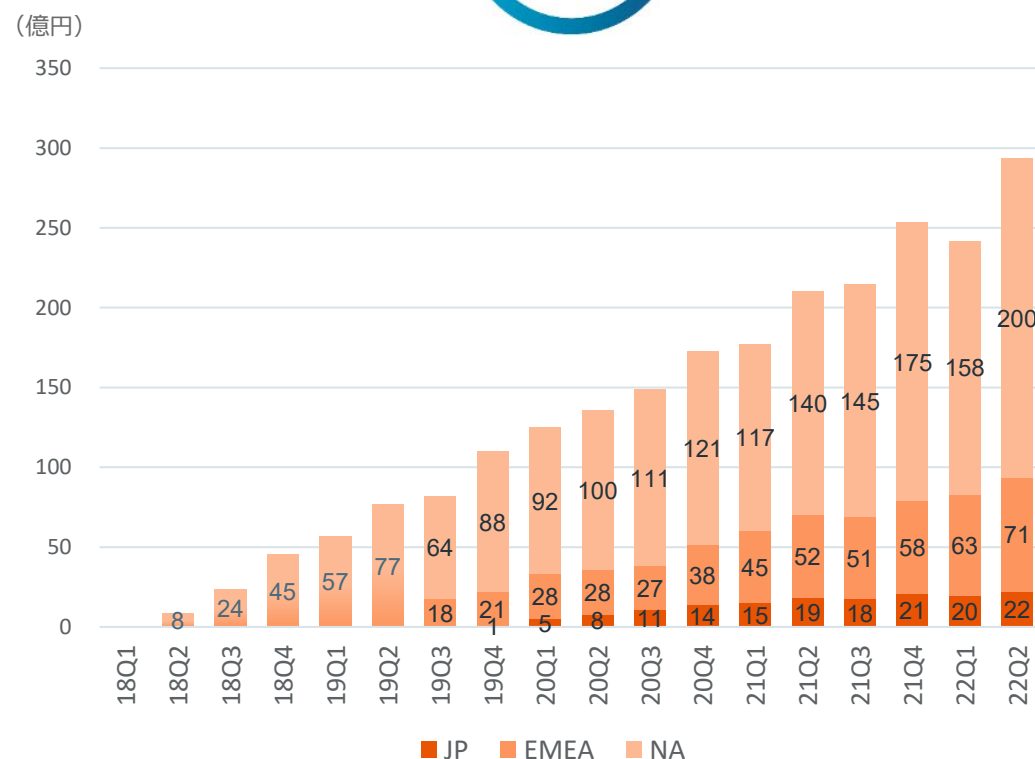
新旧業績予想対比分析

当期利益(1-12月) +100億円



コマーシャルアップデート

Crysvita・クリースビータ



*EAP (Early Access Program) による収益は含まず

2022年キーアクション・Q2トピックス

キーアクション

- 北米： 2023年春の販売移管に向けた準備を本格化。
- EMEA：引き続き上市国・適応拡大に注力。TIO審査完了予定。

第2四半期 トピックス

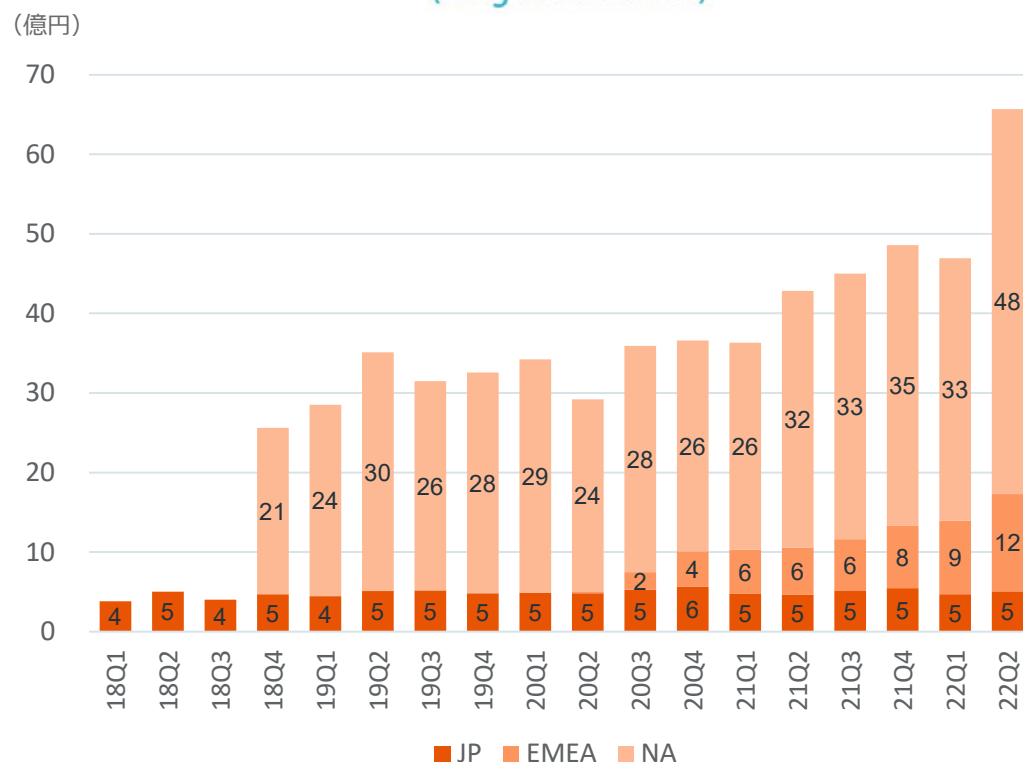
- 北米： 年末から年始にかけてCOVID-19の再流行による影響も薄まりつつあり、着実に浸透。販売移管に向けた準備は計画通り進捗。
- EMEA：ラトビアで小児XLH適応での上市を達成。TIO適応拡大についてCHMPから肯定的見解を取得。

上市国・地域（2022年6月末現在、南米除く）

下線は小児・成人上市国、太字は第2四半期の新規上市

- 2018年 アメリカ、ドイツ、オランダ、ルクセンブルク
- 2019年 カナダ、イングランド、ウェールズ、北アイルランド、スロバキア、スウェーデン、イスラエル、UAE、チェコ、デンマーク、イタリア、日本、ノルウェー、バーレーン、オーストリア
- 2020年 スコットランド、オマーン、クウェート、カタール、ルーマニア、スロベニア、フランス、フィンランド、エストニア、スペイン
- 2021年 アイルランド、ハンガリー、ベルギー、サウジアラビア、香港、中国、シンガポール
- 2022年 ポルトガル、ラトビア

Poteligeo・ポテリジオ



*EAP (Early Access Program) による収益は含まず

2022年キーアクション・Q2トピックス

キーアクション

- 販売国増加に向け、引き続き保険償還交渉を継続。
- 血液腫瘍データをはじめとするエビデンスをフル活用したプロモーション実施。

第2四半期 トピックス

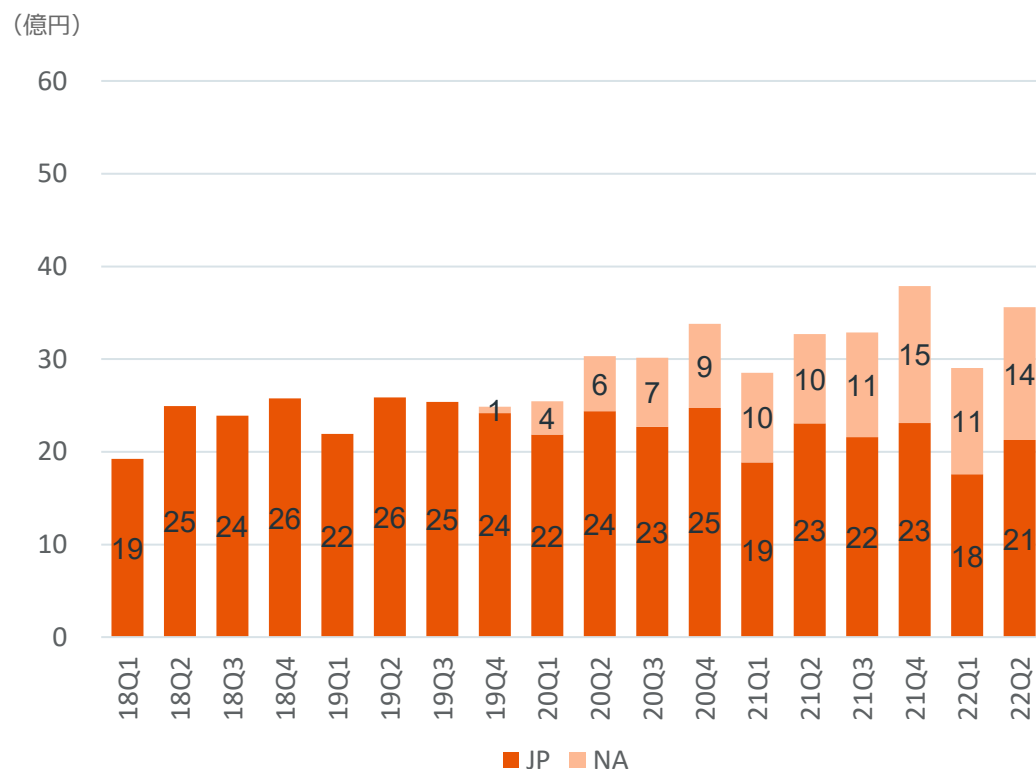
- 北米 : COVID-19による活動制限が緩和され、医療関係者とのコミュニケーションが増加中。
- EMEA : フランス、チェコで新たに上市。年初計画に対してはビハインドも上市国拡大や為替影響を受けて前年同期比+87%の成長。

上市国・地域 (2022年6月末現在)

太字は第2四半期の新規上市

- 2012年 日本
 2018年 アメリカ
 2020年 ドイツ、オーストリア、ルクセンブルク
 2021年 イタリア、スコットランド、オランダ、ベルギー、スロベニア、デンマーク、スペイン、フィンランド
 2022年 スウェーデン、サウジアラビア、スロバキア、イングランド、ウェールズ、北アイルランド、**フランス、チェコ**

Nourianz・ノウリアスト



2022年キーアクション・Q2トピックス

キーアクション

- 北米：ターゲット処方医へのアプローチを確実にし、薬剤の特徴である使いやすさ(利便性・安全性)と作用機序(非ドパミン系)の浸透を図る。

第2四半期 トピックス

- 北米：売上収益は前年同期を上回るものの、競合状況など市場環境は依然厳しく、市場浸透が年初計画に対して遅れている。対面訪問など営業活動は前年比で増加。薬剤の特徴を訴求した、処方医向けおよび患者様向けのプロモーション活動を継続。

上市国（2022年6月末現在）

2013年 日本
2019年 アメリカ

R&Dアップデート

次世代戦略品のニューズフロー

✓ : 達成済みイベント (2022年5月11日～2022年8月4日)

開発コード 一般名	イベント		予想時期	達成時期
KHK4083/AMG 451 rocatinlimab	アトピー性皮膚炎 P3 FPI (登録一時停止中)	✓	2022年 中頃	2022年6月
KW-6356	パーキンソン病 P3 FPI パーキンソン病 P2b 詳細データ		中止 2022年 下期	
ME-401 ザンデリシブ	CLL (併用、2L+) P2 FPI FL (単剤、3L+) P2 詳細データ ¹ ✓ iB-NHL (単剤、3L+) P2 トップラインデータ (JP)		2022年 下期 2022年 中頃 2022年 下期	2022年6月
RTA 402 バルドキシロンメチル	糖尿病性腎臓病 P3 LPO		2022年 下期	
KHK7791 テナパノル塩酸塩	透析施行中の高リン血症 申請 (JP)		2022年 下期	

1 2021年11月30日に公表したP2データのより詳細なデータをASCO及びEHAで発表; FPI: first patient in, 最初の患者登録日; LPO: last patient out, 最終の患者観察日; CLL: chronic lymphocytic leukemia, 慢性リンパ性白血病; FL: follicular lymphoma, 濾胞性リンパ腫; iB-NHL: indolent B-cell non-Hodgkin's lymphoma, 低悪性度B細胞性非ホジキンリンパ腫

アップデート①

Rocatinlimab (KHK4083/AMG 451)

Ph3 ROCKETプログラムの修正

- 6月にPh3試験 ROCKETプログラムを開始した。
- しかしAmgen社との協議の結果、患者さんの利便性向上を目指した投与方法のさらなる検討を目的として、現在ROCKETプログラムの修正を行っている。
- 現状、安全性や有効性に問題は生じていない。

アップデート② その他パイプラインの開発方針変更

■ KW-6356：開発中止

- 関係当局とのコミュニケーションを通じて、目標としていた製品像の達成が困難と判断した。
- グローバル開発における規制面での見通し、開発難易度、上市までのタイムラインなどを総合的に検討して、開発中止を決定した。

■ RTA 402 (ADPKD)：Ph3 FALCON試験 プロトコル変更

- 2021年12月のFDAの心血管用薬および腎臓用薬諮問委員会（CRDAC¹）等でのアルポート症候群に関する審査を踏まえ、Reata社は2022年2Qに、試験延長を含むFALCON試験のプロトコル変更についてFDAとType A meetingを実施した。
- 承認予定年は現在精査中。

1. Cardiovascular and Renal Drugs Advisory Committee

2022年のニュース

2022年初来の主なニュース ①

2022年8月4日現在

分類	公表日	ニュース概要
ESG	1/11	富士リサーチパーク・CMC研究センターへ「アクアプレミアム」導入
LCM	1/31	眼科用外用マイトマイシンC製剤の製造販売承認申請（日本）
ESG	2/3	グローバルDE&I宣言を策定
LCM	2/25	ジーラスタの承認事項一部変更承認取得（日本） （同種末梢血幹細胞移植のための造血幹細胞の末梢血中への動員）
ESG	3/9	経済産業省より健康経営銘柄に初選定
LCM	3/23	ヒスロン錠5の承認事項一部変更承認取得（日本）
R&D	3/31	FDAとの協議を踏まえたザンデリシブの米国での開発の見通しについて
LCM	4/4	ジーラスタの国内臨床試験に関する論文発表 （自動投与デバイス使用における安全性を確認）
SCM	5/17	高崎工場に新バイオ医薬品原薬製造棟の建設を決定
R&D	5/18	新規モダリティによるミトコンドリア病治療に関するルカサイエンスとの共同研究開始
前回の決算からのアップデート		

2022年初来の主なニュース ②

2022年8月4日現在

分類	公表日	ニュース概要
ESG	5/31	高崎工場に企業主導型保育施設の開設を決定
R&D	5/31	InveniAIとの共同研究における最初のマイルストーン達成 (InveniAIのプラットフォームから見出した創薬コンセプトを前臨床試験で立証)
LCM	6/1	ルミセフの臨床試験データを欧州リウマチ学会で発表 (全身性強皮症疾患に対する有効性および安全性を確認)
R&D	6/5	ザンデリシブの第2相試験データをASCO (米国臨床腫瘍学会) で発表
R&D	6/10	ザンデリシブの第2相試験データをEHA (欧州血液学会) で発表
LCM	6/27	CrysvitaのTIO適応について欧州CHMPから肯定的見解を取得
ESG	7/13	FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症に関する自社疾患情報提供サイト「くるコ ツ広場」の新コンテンツを公開 (日本)
R&D	7/15	KW-6356の開発中止を決定
R&D	7/19	ザンデリシブの第1b相試験データに関する論文をLancet Oncologyに掲載
LCM	8/1	ジーラスタ皮下注3.6mgボディーポットの製造販売承認取得 (日本)
前回の決算からのアップデート		

Appendix

為替関連情報

期中平均為替レート

米ドル (USD/円)

英ポンド (GBP/円)

2021年Q2実績	2022年Q2実績	前年比	2022年修正予想
107円	120円	+13円	128円
147円	158円	+11円	162円

2022年Q2 為替影響額 (前年対比)

米ドル (USD/円)

英ポンド (GBP/円)

売上収益	コア営業利益
+63億円	+24億円
+21億円	+5億円

2022年度 為替感応度

米ドル (USD/円)

英ポンド (GBP/円)

変動	売上収益	コア営業利益
1円安	+11億円	+3億円
1円安	+4億円	+1億円

Crysvita ～Ultragenyx社とのコラボレーション～

経済条件

アメリカ・カナダ

- ・ 協和キリンが売上計上
- ・ 発売後5年間は50/50プロフィットシェア
- ・ 発売後6年目からはUltragenyxに段階的な販売ロイヤルティ支払い(20%台中～後半)
- ・ 製品供給価格は2022年度までは売上の35%、以降は30%

ヨーロッパ

- ・ 協和キリンが売上計上
- ・ Ultragenyxに10%以下の販売ロイヤルティ支払い
※Ultragenyxは販売ロイヤルティを受け取る権利をRoyalty Pharmaに譲渡(2020年度～)

ラテンアメリカ

- ・ Ultragenyxが売上計上
- ・ 協和キリンは販売ロイヤルティ受け取り(1桁%台前半)
- ・ 製品供給価格は2022年度までは売上の35%、以降は30%

トルコ

- ・ Ultragenyxが売上計上
- ・ 協和キリンは販売ロイヤルティ受け取り(20%以下)

アジア・その他

- ・ 協和キリンが売上計上

※すべての地域において製品供給は協和キリンが行う。

KHK4083/AMG 451 ～Amgen社とのコラボレーション～

	アメリカ	欧州、アジア (日本を除く)	日本
開発	- Amgenが開発主導 - 開発コストは両社で折半	- Amgenが開発主導 - 開発コストは両社で折半	協和キリンが治験主導
販売	- Amgenが販売、売上計上 - 協和キリンはコプロモーション、費用は両社で折半	- Amgenが販売、売上計上 - 協和キリンはコプロモーションのオプトイン権利を保有	協和キリンが販売、売上計上
売上ロイヤルティ	協和キリンは2桁%台の売上ロイヤルティを受領	協和キリンは2桁%台の売上ロイヤルティを受領	
製品供給	Amgen	Amgen	協和キリン

協和キリンは、契約一時金（400百万ドル、受領済み）のほか、今後、条件に応じたマイルストーン収入（累計で最大850百万ドル）と売上ロイヤルティをAmgen社より受領予定

次世代戦略品の開発予定

ト : トップラインデータ

詳 : 詳細データ

2022年8月4日現在

開発コード 一般名	標的疾患	2022	2023	2024	+
KHK4083/ AMG 451 rocatinlimab	アトピー性皮膚炎	P3			ROCKET
KW-6356	パーキンソン病	P3 P2b	中止 詳		
ME-401 ザンデリシブ	FL (単剤, 3L+)	P2	詳**		} TIDAL
	MZL (単剤, 3L+)	P2			
	FL/MZL (併用, 2L+)	P3			COASTAL
	iB-NHL (単剤, 3L+)*	P2	ト		MIRAGE
	CLL (併用, 2L+)	P2			
RTA 402 バルドキソロンメチル	アルポート症候群	申請済			
	糖尿病性腎臓病	P3			AYAME
	ADPKD	P3			FALCON
KHK7791 テナパノル塩酸塩	透析施行中の 高リン血症	P3			
		P3	申請*		
		P3			
		P3			

* 日本; ** 2021年11月30日に公表したP2データのより詳細なデータをASCO及びEHAで発表; FL:濾胞性リンパ腫; MZL:辺縁帯リンパ腫; iB-NHL:低悪性度B細胞性非ホジキンリンパ腫; CLL:慢性リンパ性白血病; ADPKD:常染色体優性多発性嚢胞腎; 2L+: 2次治療以降; 3L+: 3次治療以降

推定患者数

疾患	国/地域	発生率	有病率*	出典
ATL	日本	1,150 / 年		本邦におけるHTLV-1感染及び関連疾患の実態調査と総合対策 平成21年度総括研究報告書 (山口一成、平成22年3月)
PTCL	日本		2,000	厚生労働省 平成29年患者調査、傷病基本分類別
CTCL	日本		2,000	厚生労働省 平成29年患者調査、傷病基本分類別
CTCL	米国	1,500 / 年		SEER Data (2001-2007)
XLH	日本	1:20,000	成人: 5,000 小児: 1,000	本疾患の推定発症率に基づく概算; Nationwide survey of fibroblast growth factor 23 (FGF23)-related hypophosphatemic diseases in Japan: prevalence, biochemical data and treatment. (Endo I et al., Endocr J., 2015)
XLH	欧州	1:20,000	成人: 12,000 小児: 3,000	本疾患の推定発症率に基づく概算
XLH	米国	1:20,000	成人: 12,000 小児: 3,000	本疾患の推定発症率に基づく概算; New perspectives on the biology and treatment of X-linked hypophosphatemic rickets. (Carpenter TO, Pediatr Clin North Am., 1997)
TIO	日本		30	2010年 厚生労働省 ホルモン受容機構異常に関する疫学調査研究
TIO	米国		500-1,000	Ultragenyx社調査
AD	日本、北米、欧州		30,000,000	Decision Resources社調査
PD	日本		162,000	厚生労働省 平成29年患者調査、傷病基本分類別
PD	米国	60,000 / 年	~1,000,000	Parkinson's Foundation (2022年2月現在) から引用 https://www.parkinson.org/Understanding-Parkinsons/Statistics
FL	米国	15,000 / 年		Cancer.net (2022年2月現在) から引用 https://www.cancer.net/
FL	日本	6,750 / 年		国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」(全国がん登録); Epidemiology of malignant lymphoma and recent progress in research on adult T-cell leukemia/lymphoma in Japan (Miyoshi H et al., Int J Hematol, 2018)
MZL	米国	6,000 / 年		Lymphoma.org (2022年2月現在) から引用 https://lymphoma.org/
MZL	日本	1,060 / 年		国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」(全国がん登録); Epidemiology of malignant lymphoma and recent progress in research on adult T-cell leukemia/lymphoma in Japan (Miyoshi H et al., Int J Hematol, 2018)
AS	日本		1,200	難病情報センターホームページ (2022年2月現在) から引用 https://www.nanbyou.or.jp/entry/4348
ADPKD	日本		31,000	難病情報センターホームページ (2022年2月現在) から引用 https://www.nanbyou.or.jp/entry/295
CKD	日本		13,300,000	日本腎臓学会 CKD診療ガイド2012
CKD (透析)	日本	40,885 / 年	344,640	日本透析医学会「わが国の慢性透析療法の現況 (2019年末)」

* 有病率は国または地域の全人口あたりの推定人数

略語集

AD	Atopic Dermatitis	アトピー性皮膚炎
ADPKD	Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease	常染色体優性多発性嚢胞腎
AG	Authorized Generic	オーソライズド・ジェネリック
AS	Alport Syndrome	アルポート症候群
ATL	Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma	成人T細胞白血病リンパ腫
BS	Biosimilar	バイオ後続品
CKD	Chronic Kidney Disease	慢性腎臓病
CLL	Chronic Lymphocytic Leukemia	慢性リンパ性白血病
DKD	Diabetic Kidney Disease	糖尿病性腎臓病
FL	Follicular Lymphoma	濾胞性リンパ腫
iNHL	Indolent B-cell Non-Hodgkin Lymphoma	低悪性度B細胞リンパ腫
LCM	Lifecycle Management	ライフサイクルマネジメント
MZL	Marginal Zone Lymphoma	辺縁帯リンパ腫
PD	Parkinson's Disease	パーキンソン病
PTCL	Peripheral T-Cell Lymphoma	末梢性T細胞リンパ腫
TIO	Tumor Induced Osteomalacia	腫瘍性骨軟化症
XLH	X-linked Hypophosphatemia	X染色体連鎖性低リン血症



～本資料のお問合せ先～

協和キリン株式会社
コーポレートコミュニケーション部 IRグループ
03-5205-7206 / ir@kyowakirin.com